

# 溶連菌感染症

## 溶連菌感染症とは...

- ＊ 溶血性連鎖球菌という細菌による病気です。
- ＊ 5～10歳くらいまでの子どもがかかりやすく、春から初夏と冬季に流行しやすい。
- ＊ 高熱や喉の痛みから始まるため、風邪と症状が似ています。
- ＊ 適切な抗生剤治療が必要。(有効な抗菌薬を飲めば、2日ほどで登園可能)
- ＊ 感染後、数週間してリウマチ熱や急性糸球体腎炎を合併することがあります。
- ＊ 子どもから子どもへだけではなく、子どもから抵抗力の低下した大人や妊婦にも感染することがあります。

## 主な症状

- 突然の発熱(38℃～39℃の高熱が出る)。
- 喉の痛みや腫れ、頭痛、時に腹痛、嘔吐を伴う。
- 発熱から2～3日経つと、首や胸、手首、足首に、赤く小さな痒みのある発疹が出て、やがて全身に広がる。
- 舌にイチゴ状の小さくて赤いブツブツした発疹が現れる。
- 頸部・顎下リンパ節の腫れを伴うことがある。

潜伏期間 2～5日

感染経路 飛沫感染、接触感染、

## 対応

- 熱がある時は、水分補給を十分に行いましょう。
  - 喉の痛みがある時は、のどごしがよく消化のよい食べ物を心がけ、熱い物や刺激物、柑橘系の果物は避けましょう。
  - 食べるのがつらいようであれば、水分だけでもしっかり摂れるよう心がけてください。
  - 熱が下がってきている時は、長湯でなければお風呂(シャワー)に入っても大丈夫です。
- ※ただし、発疹が出ている場合は、温めるとかゆみが強くなるため、温めすぎないように注意！
- 爪を短めに切り、肌をかきすぎて傷をつけないようにしましょう。
  - 下着も肌に刺激が少ない綿製のものをおすすめします。



**発症の症状がなくなっても要注意！**

- 溶連菌感染症と診断されたら、抗菌薬を10日から2週間程服用します。早い時期から服用するほど、治療効果があるとされています。
- 発症から5日程経つと、熱も下がり発疹や喉の痛みも治まりますが、病原菌が残っていれば再発の危険や合併症を引き起こすこともあります。

**完治の判断は10日～2週間後**

- 症状の改善後も、10日～2週間後に尿中に血液が混じっていないかを検査して確認します。

↓

**症状が改善しても、医師の指示された期間、最後まで薬を飲み続けることが大切です！**

## 予防のポイント

- 予防接種はありません。
- **手洗い・うがい**を徹底する。
- 飛沫感染を予防するためには、マスクも有効です。
- 症状が出た場合には、早めに医療機関を受診しましょう。
- もし溶連菌感染症にかかってしまった家族がいる場合は、同じコップや食器を使うことは避けましょう。



## <登園の目安>

抗菌薬内服後24時間～48時間経過していること。  
ただし、治療の継続は必要。

**※かかった場合には、  
医師の診察を受け、許可を得てから登園してください。**

## 【参考情報】

- ・国立感染症研究所ホームページ「A群溶血性レンサ球菌咽頭炎とは」
- ・東京都感染症情報センターホームページ「A群溶血性レンサ球菌咽頭炎」